

# ワンピースのような政治をしよう！ ～日本の危機に若者の力を～

龍馬プロジェクト全国会会長  
**神谷 宗幣**

しがくセミナー  
講演録93

こんなに一生懸命やる日本人は  
どれくらいいるのだろうかと考えました。

中国人と韓国人です。彼らはバイタリティがあり、勉強にも熱心でしたので、なぜカナダに来たのかと聞いてみます。すると「お前はなぜ来たんだ。日本をこれからどうしていきたいんだ」と質問を返されました。それに対し、世界を見てみたいと思った、英語を勉強していく会社に入りました。家を建てたい、いいお嫁さんが欲しいなどと答えました。すると彼女に失笑されました。「それは分かる。俺にもそういう個人的な目標はある。だけど、君はこれから日本をどうしていきたいんだ」と問われた時に、答えが出せませんでした。そんなことを考えたこともありませんでした。そして本当にそんなことを考えているのかと、逆に聞いてみました。するとすぐに答えが返ってきました。韓国の友達は「ここに来る前に、二年間徴兵に行っていた。付き合っていた彼女とも別れ、キャリアも止め、そして強制的に訓練させられた。徴兵というものはすごく嫌なんだ。だから二年間、なぜこんな事をさせられるのかと考へた。すると色々なことが見えた。それは北朝鮮と戦争しているからだ。そして、今後北朝鮮と統合するか戦争するかによって、俺の人生が大きく変わってしまう。戦争になつたら俺の子供が戦争に行くことになるから、俺は平和裏に統合して欲しいと思っているが、統合したら経済が大変なことになる。だから俺は経済を学びに来ているんだ」と答えました。中国人の友達は「中国はこれから日本のように経済発展をしていきたいけれども、村には全く産業が無い。技術者もいない。だから村から若くて優秀な技術者を出すために、村のお金で勉強しに来ている。村の未来が自分に掛かっている」と答えました。彼らのビジョンは凄いなと思ったのを今でも覚えています。

そんな人達と二ヶ月間勉強していると、凄いなという気持ちが、ますいなという気持ちに変わってきます。私は自分がことしか考えていませんでしたが、彼らはそれに加えて家族や村や国のために思つて頑張っているので、段々温度差が出てきました。自分のことだけでは、嫌なことは

すぐ止めてしまします。しかし、彼らは自分のためだけではなく誰かのためなので、遊びに誘つても「勉強しているから」と断られました。自分も含めて、こんなに一生懸命やる日本人はどれくらいいるのだろうかと考えました。少なくとも、二十年間生きてきた中で自分の周りには一人もいませんでした。まだ二十代でしたから、彼らとの差は少ししかありませんでしたが、十年、二十年という単位で見たら、もし同じ会社に入つたら、自分は彼らと肩を並べ歩けないどころか、圧倒されてしまうと思いました。自分が負けるのはどうつてことありませんが、若者が全国で負けていたとしたら、これから日本はどうなつてしまふんだと思いました。そこから日本に対する危機感を持ち始めました。

## 気づきを広める

彼らと出会い、自分のためだけに勉強していた自分が段々恥ずかしくなつてきて、もっと大きな目標を持たない自分も日本もまずいと思うようになりました。そうなると勉強は馬鹿馬鹿しくて手につきません。二ヵ月でカナダの学校を辞め、世界を放浪しました。憧れていたアメリカは、都市部以外は想像と違つていて、差別や身の危険、貧しさなど、なぜ憧れていたのだろうと思うほどでした。日本の方が十倍楽しくて安全です。それからヨーロッパ、アフリカと回り、日本は本当に恵まれていて、差別や身の危険も貧しい国でした。先人が頑張ったからこそ今があることを忘れてはいけません。

一年間も世界を放浪するという経験はなかなかできることがありません。自分が見たこと、気づいたことを日本に帰つて周りに広めようと思いました。その時に、普通に就職するのではなく、政治家になりたいと思つたのがきっかけでした。



**神谷 宗幣** Sohei Kamiya  
龍馬プロジェクト全国会会長

1977年 福井県生まれ  
2002年 関西大学文学部史地学科卒業  
その後実家のスーパーの店長を1年、高校教師を1年務める  
2004年 関西大学法科大学院法務研究科へ進学  
2007年 吹田市議会選挙にて初当選（30位）、2010年より龍馬プロジェクト全国キャラバン開始  
2011年 吹田市議会選挙にて再選（2位）、吹田市議会副議長に就任  
※2012年11月当時

**チームで取り組む**

なぜ龍馬プロジェクトという活動をしているのかというと、戦後六十七年が経ち、日本の現状を自分の頭で考え、二十年後、三十年後の未来をシミュレーションすると、このままでますいと感じたからです。様々な問題が想定され、それに対して政治家も評論家も色々なことを言います。が、具体的に改善の取り組みがされているのかと見てみると、どうも誰もちゃんとやっていない。

私は政治家です。市議会議員という地方議員かもしませんが、政治家です。政治家が、このままだとまずいといふシミュレーションができるのに、何もしない訳にはいきません。ですが、どこか既存のグループに入るとか、先輩についていくとか、そういうことで問題は解決しないと思い、仲間と考えあつた結果、自分たちで問題に取り組むチームを作るしかないと判断しました。そしてそのチームの理想は、夢を共有していて、志で繋がつていて、お金を持っている人が偉いとかではなく、一番高い志を持つ

つている人にみんながついていくチームです。そしてその中で一人ひとりが活かされるチームがいいと話しました。既存の権力に従うのではなく、嫌なものは嫌とはつきり言えるチームがいいという話をしていました。漫画の世界ですが、『ワンピース』のような政治家チームができると、国民はそこに大きな期待を抱いてくれるのではないかと思いました。最近は政治不信が蔓延しており、政治家と言つて斜めから見られる社会状況ではあります。若い世代の多くは『ワンピース』が好きで、今や国民漫画となつていています。あいつたチームを作つてビジョンを語り、協力を訴えかけていけば、目の前にある問題を改善の方向に持つていけるのではないかと考えています。

## 人生の転機

大学三年生の時にカナダに行きました。このカナダに行つたことが私の人生を変えたと思います。カナダでは多くのアジアの若者と共に勉強をしました。特に多かったのは



text by 伊藤 喬史 + photographs by Yocco

Information	龍馬プロジェクト
<a href="http://ryouma-project.com/">http://ryouma-project.com/</a>	現代の下級武士とも言える我々地方議員が、坂本龍馬の如く全国を飛び回り、草の根活動で想いある青年を探し、政治の世界に引っ張っていくこと、そして地方でくすぶついている可能性ある政治家に声をかけ繋げていくことで、国民の信頼を受け止められる政治集団を超党派で作ろうというのが「龍馬プロジェクト」です。